

# 平内町橋梁長寿命化修繕計画

10箇年計画



令和2年4月



平内町

# 目 次

1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景	1
2. 平内町橋梁アセットマネジメントの基本コンセプト	1
3. 平内町の橋梁を取巻く現状	2
3.1 橋梁の現況（橋梁数の内訳）	2
3.2 地理的特徴	3
4. 橋梁アセットマネジメントに基づく橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー	4
5. 橋梁長寿命化修繕計画の策定	5
5.1 橋梁の維持管理体系	5
5.2 橋梁の維持管理	6
（1）維持管理・点検	7
（2）維持管理シナリオ	9
（3）更新対象の選定	10
（4）長寿命化シナリオの絞り込み	10
（5）健全度の将来予測と LCC 算定結果	10
（6）予算の平準化	12
（7）シナリオ別 LCC 算定	13
（8）予算シミュレーション	14
（9）更新・長寿命化対策工事リスト	17
6. 橋梁長寿命化修繕計画により見込まれるコスト縮減効果	18
7. 事後評価	19
8. 橋梁長寿命化修繕計画策定に係る学識経験者の意見聴取	20
9. 橋梁長寿命化修繕計画一覧表	21

## 1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景

近年、日本国内において高度成長期（1955年～1973年）に建設された橋梁が一斉に建設後50年を迎えることとなり橋梁の高齢化が懸念されています。今後橋梁補修、架替などの費用がこれまで以上に増大することが予想され、これまで通りの対策方法では適切な維持管理を全ての橋梁において実施することは困難となることが予想されます。

こうした背景から、青森県では補修のコスト縮減および橋梁の延命化を図るため、平成16年度より橋梁アセットマネジメントシステムを構築し平成18年3月には、5箇年アクションプラン（平成18年度～平成22年度）を策定し、現在は平成29年度に策定した「橋梁長寿命化修繕計画」（10箇年計画：平成29年度～平成38年度）に基づき事業を実施しています。

青森県と同様に平内町が管理する橋梁においても、長期的な視点から橋梁を効果的・効率的に管理し、維持更新コストの最小化・平準化を図っていく取り組みとして、定期点検結果並びに計画に基づいた事業実施結果を受けて、新たに「橋梁長寿命化修繕計画（10箇年計画：令和2年度～令和11年度）」を策定いたしました。

なお、本計画は現状の健全度・損傷度、予算計画に基づいて策定したものであり、今後の点検結果並びに予算の推移によって変動が生じる可能性があります。

## 2. 平内町橋梁アセットマネジメントの基本コンセプト

平内町の基本コンセプトは、青森県の基本コンセプトに則り橋梁アセットマネジメント<sup>1</sup>を進めることとする。

### ☆ 町民の安全安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持します

これまで青森県民の生活を支え続けてきた多くの道路や橋梁などの老朽化が進行しており、近い将来に更新などに要する費用が膨大になるという問題が明らかとなってきました。

この問題を解決しなければ、橋梁などの劣化・損傷が進み、道路ネットワークが機能しなくなり、県民の生活に支障をきたすことが想定されます。

平内町としても、来るべく大量更新時代に向けて、今後とも町民の安全・安心な生活を確保するため、健全な道路ネットワークを維持することに全力で取り組んでいきます。

### ☆ 橋梁アセットマネジメントシステムによる維持管理を継続していきます

平内町は、今後も社会資本の新たな維持管理の手法として「アセットマネジメント」による維持管理を継続していきます。

### ☆ 対症療法的な維持管理から予防保全による維持管理を一層進めます

橋梁アセットマネジメントシステムを導入する以前の維持管理は、「傷んでから直すまたは作り替える」という対症療法的なものでしたが、劣化・損傷を早期発見し早期対策する予防保全による維持管理への転換を更に進め、将来にわたるLCC（ライフサイクルコスト）を最小化します。

### ☆ 社会資本の維持更新コストの大幅削減を実現します

「いつ、どの橋梁に、どのような対策が必要か」をアセットマネジメントによりの確に判断のうえ、橋梁の長寿命化を図り、将来にわたる維持更新コストの大幅な削減を実現します。

<sup>1</sup>アセットマネジメント：道路を資産としてとらえ、構造物全体の状態を定量的に把握・評価し、中長期的な予測を行うとともに、予算的制約の下で、いつどのような対策をどこに行うのが最適であるかを決定できる総合的なマネジメント（「道路構造物の今後の管理・更新等のあり方提言（平成15年4月）」国土交通省道路局HPより）

### 3. 平内町の橋梁を取巻く現状

#### 3.1 橋梁の現況（橋梁数の内訳）

現在、平内町が管理している 15m以上の橋梁数は 14 橋であり、50 年を経過した橋梁が 4 橋発生しています。

構造形式としては 8 橋がコンクリート橋、6 橋が鋼橋です。

表 3-1 橋梁諸元

R2. 4. 1 現在

橋梁番号	橋梁名	供用開始日	経過年数	塩害	橋長 (m)	全幅員 (m)	径間数	設計活荷重	上部工形式名
301100121	童子橋	1968/3/31	52 年	—	41.3	8.7	2	TL-16	プレートガーターH桁橋
301100222	大橋	1970/4/1	50 年	—	62.8	7.8	3	TL-20	PC桁橋
301100243	小湊川歩道橋	1978/4/1	42 年	—	62.0	2.7	3	0	PC ホロー桁
301100323	清水川橋	1945/4/1	85 年	—	18.3	7.9	2	TL-16	鉄筋コンクリート
301100624	福島橋	1974/4/1	46 年	—	86.1	4.8	4	TL-20	H型活荷重合成桁
301100725	盛田橋	1978/11/1	42 年	—	84.0	4.7	4	TL-14	H型鋼単純合成桁橋
301101626	第2松野木橋	2002/10/1	18 年	—	58.0	8.2	2	B活荷重	2径間連続非合成鉄桁橋
301102327	第二野内畑橋	1979/3/31	41 年	—	25.0	4.8	1	TL-20	簡易H桁
301203128	薬師橋	1968/4/1	52 年	—	55.1	3.7	3	TL-14(推定)	プレートガーターH桁橋
301312829	口広橋	1990/10/31	30 年	—	18.7	8.2	1	TL-20	プレテンション単純T桁橋
301312830	第1堀差橋	1992/12/1	28 年	—	24.0	8.2	1	TL-20	プレテンション単純T桁橋
301313131	小沢橋	2002/3/31	18 年	—	47.1	6.2	2	A活荷重	2径間連続プレテン方式T桁橋
301313232	雷電橋	1986/2/1	34 年	C-S	163.3	6.9	5	TL-20	PCポストテンション単純T桁橋
301313237	雷電側道橋	1994/12/1	26 年	C-S	163.3	3.3	6	群集荷重	PCポストテンション単純T桁橋

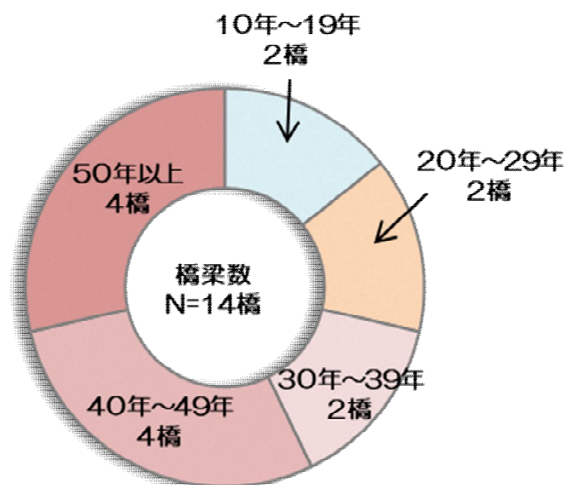


図 3-1 建設後経過年数別の割合

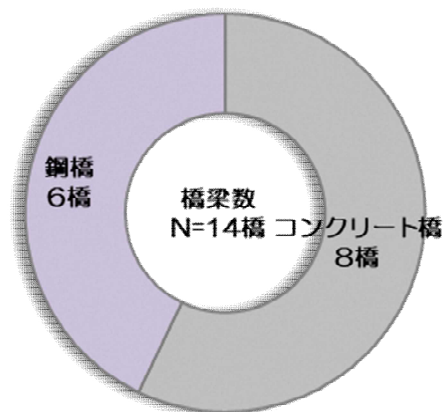


図 3-2 構造形式別の割合



### 3.2 地理的特徴

青森県は、地理的特徴により環境条件が非常に厳しい地域です。

平内町の管理している15m以上の橋梁においても、塩害影響地域に該当する橋梁もあり、更に積雪地帯であることから除雪時に散布される融雪剤により塩害<sup>1</sup>を受けることもあり、気温の低下上昇の繰り返しにより凍害<sup>2</sup>による損傷も懸念されます。



図 3-3 青森県の地理的特徴



「橋梁点検技術研修会資料より」

<sup>4</sup> 塩害：コンクリート中に塩分が浸透して鋼材を腐食させる劣化現象

<sup>2</sup> 凍害：コンクリート中の水分が凍って膨張し、コンクリートを破壊させる劣化現象

#### 4. 橋梁アセットマネジメントに基づく橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー

橋梁長寿命化修繕計画は、図 4-1 に示す基本フローにしたがって策定します。

計画策定にあたっては、ブリッジマネジメントシステム（以下、BMS）を用いて、劣化予測、LCC算定や予算シミュレーション等の分析を行います。

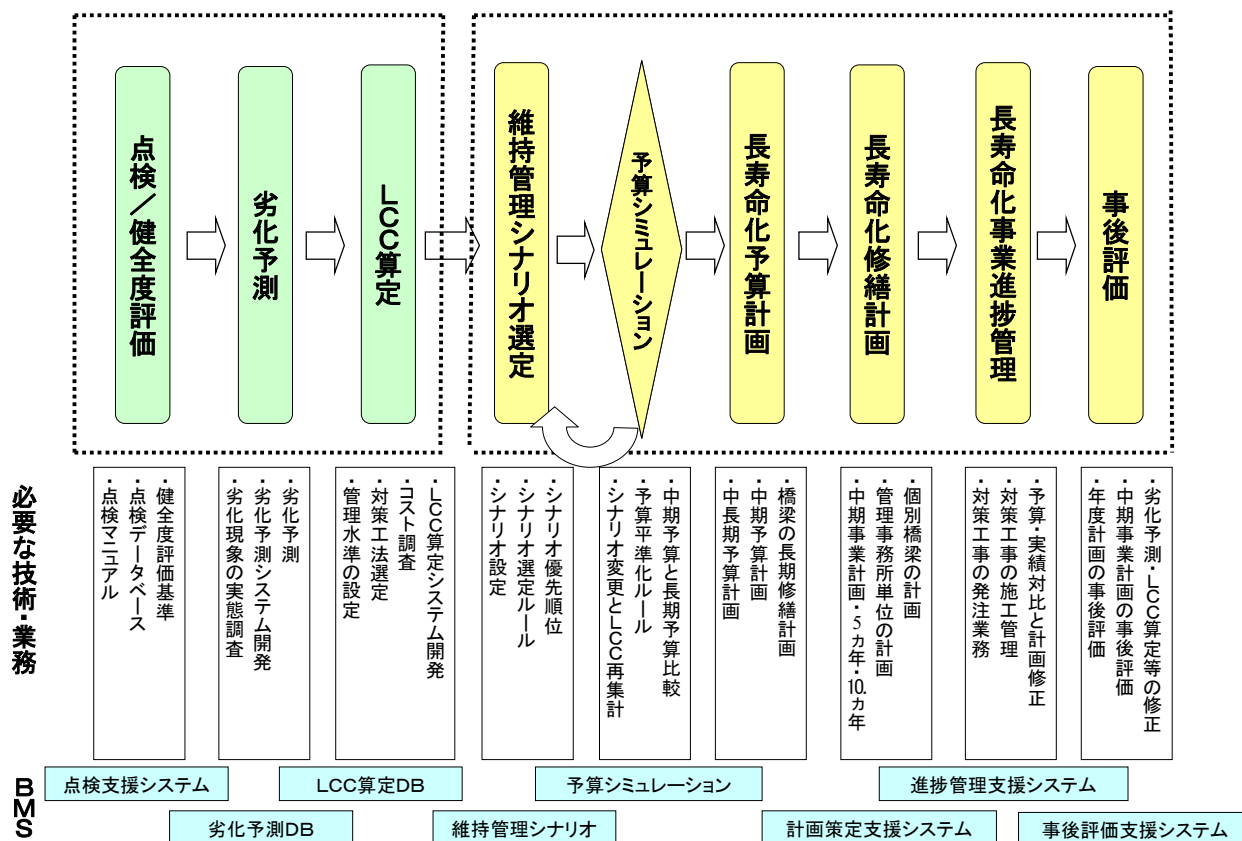


図 4-1 橋梁長寿命化修繕計画の基本フロー

## 5. 橋梁長寿命化修繕計画の策定

### 5.1 橋梁の維持管理体系

橋梁の維持管理は、その業務内容から「点検・調査」と「維持管理・対策」に大別されます。

また、「点検・調査」から得られる情報を「維持管理・対策」に反映させる際に、劣化予測・LCC算定・予算シミュレーションなどの意思決定の支援を行なう「ブリッジマネジメントシステム（BMS）」と、「点検・調査」および「維持管理・対策」の各種情報を管理蓄積する「橋梁データベースシステム」という二つのITシステムがあります。

また、橋梁の維持管理は、「日常管理」、「計画管理」、「異常時管理」から構成されており、それぞれの管理において、「点検・調査」と「維持管理・対策」を体系的に実施します（図 5-1）。

維持管理体系におけるそれぞれの内容は以下のとおりです。

- (1) 【点検・調査】：橋梁の状態を把握し、安全性能・使用性能・耐久性能といった主要な性能を評価するとともに、アセットマネジメントにおける意思決定に必要な情報を収集します。
- (2) 【維持管理・対策】：橋梁の諸性能を維持または改善します。
- (3) 【日常管理】：交通安全性の確保、第三者被害の防止、劣化・損傷を促進させる原因の早期除去および構造安全性の確保を目的として、パトロール、日常点検、清掃、維持工事等を実施します。
- (4) 【計画管理】：構造安全性の確保、交通安全性の確保、第三者被害の防止、ならびに BMS を活用した効率的かつ計画的な維持管理を行なうことを目的に、定期点検、各種点検・調査、対策工事などを実施します。
- (5) 【異常時管理】：地震、台風、大雨などの自然災害時、ならびに事故等の発生時に、交通安全性の確保、第三者被害の防止および構造安全性の確保を目的として、異常時点検、緊急措置、各種調査などを実施します。

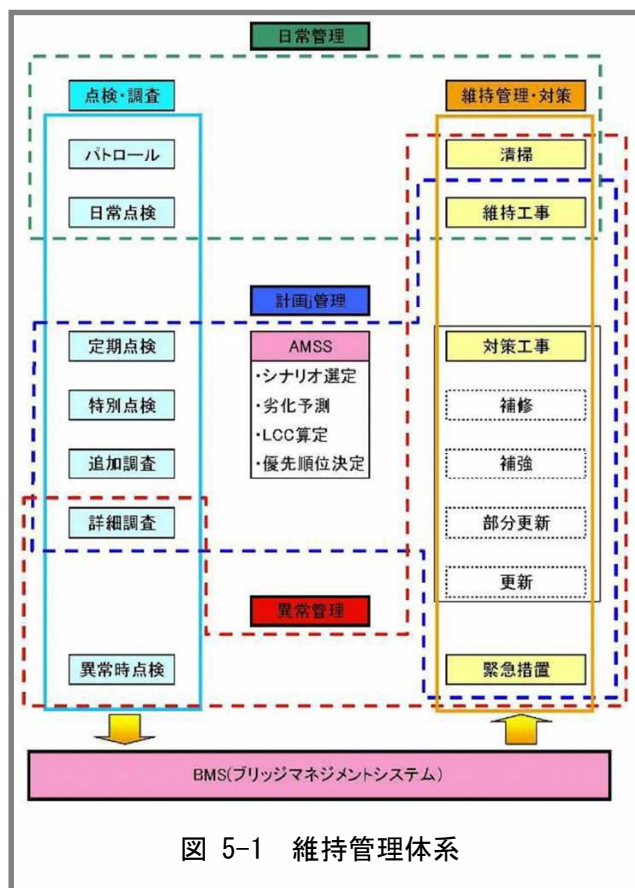


図 5-1 維持管理体系

## 5.2 橋梁の維持管理

BMSにより劣化予測・LCC算定・予算シミュレーションを実施し、その結果に基づいて事業計画の策定を行います。BMSは大きく5つのstepで構成されています。

step1は橋梁の維持管理に関する全体戦略を構築します。step2は、環境条件、橋梁健全度、道路ネットワークの重要性等を考慮して、橋梁ごとに、維持管理シナリオに基づく維持管理戦略を立て、選定された維持管理シナリオに対応するLCCを算定します。step3は、全橋梁のLCCを集計し、予算シミュレーション機能によって予算制約に対応して維持管理シナリオを変更し、中長期予算計画を策定します。step4は補修・改修の中期事業計画を策定し事業を実施します。そしてstep5で事後評価を行い、マネジメント計画全体の見直しを行います。

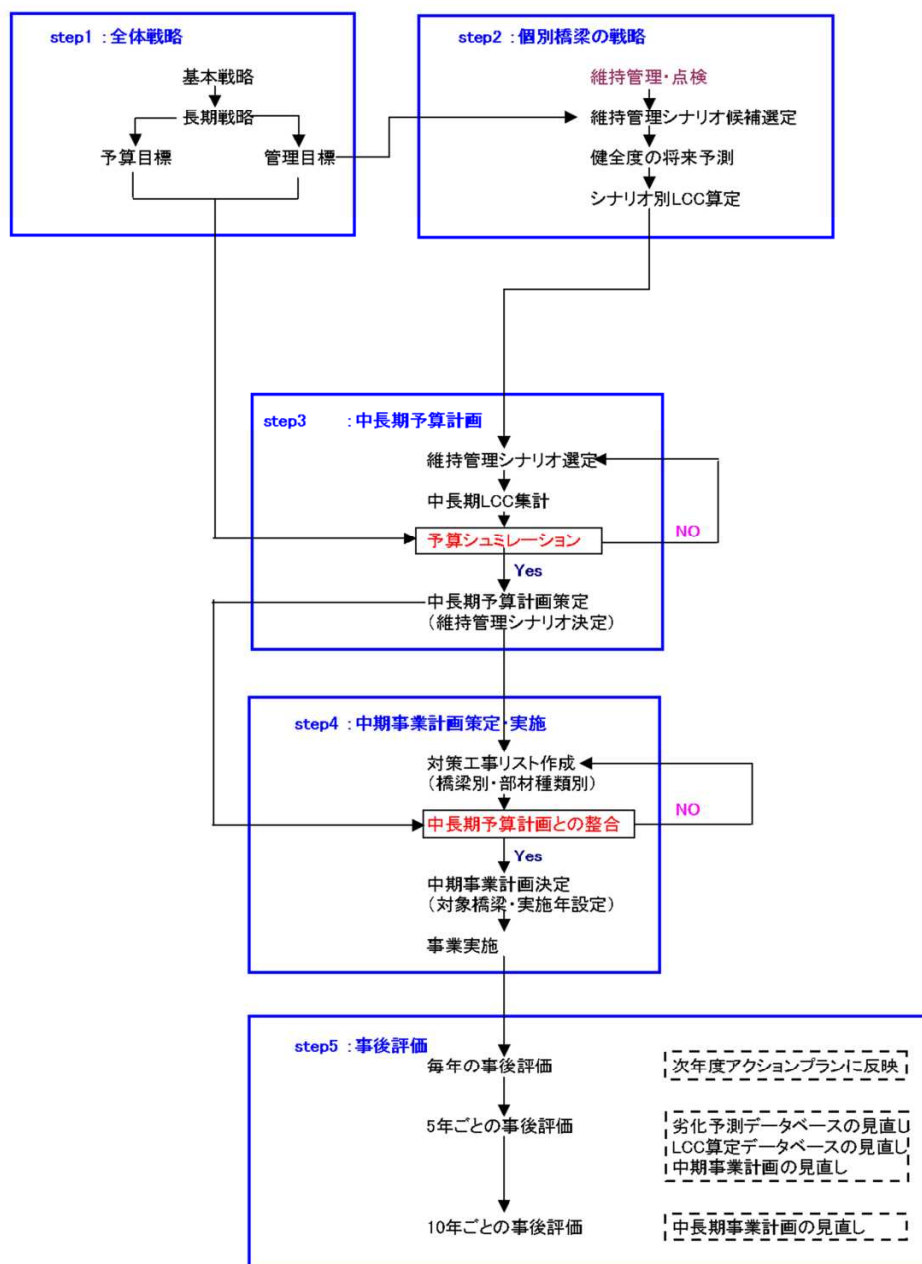


図 5-2 BMSを用いたブリッジマネジメントのフロー



(1) 維持管理・点検

青森県では、独自の橋梁点検マニュアルを策定し、定期点検を効率的に行なうための「橋梁点検支援システム」を開発して、点検コストを大幅に削減しました。これに習い平内町でも同様のシステム・手順により点検を行いました。

● 橋梁点検支援システム

「橋梁点検支援システム」は、タブレット PC に点検に必要なデータを予めインストールし、点検現場において点検結果や損傷状況写真を直接 PC に登録していく仕組みとなっています。現場作業終了後は、自動的に点検結果を出力することが可能であり、これにより点検後の作業である写真整理や点検調書の作成が不要となり、大幅な省力化につながっています。

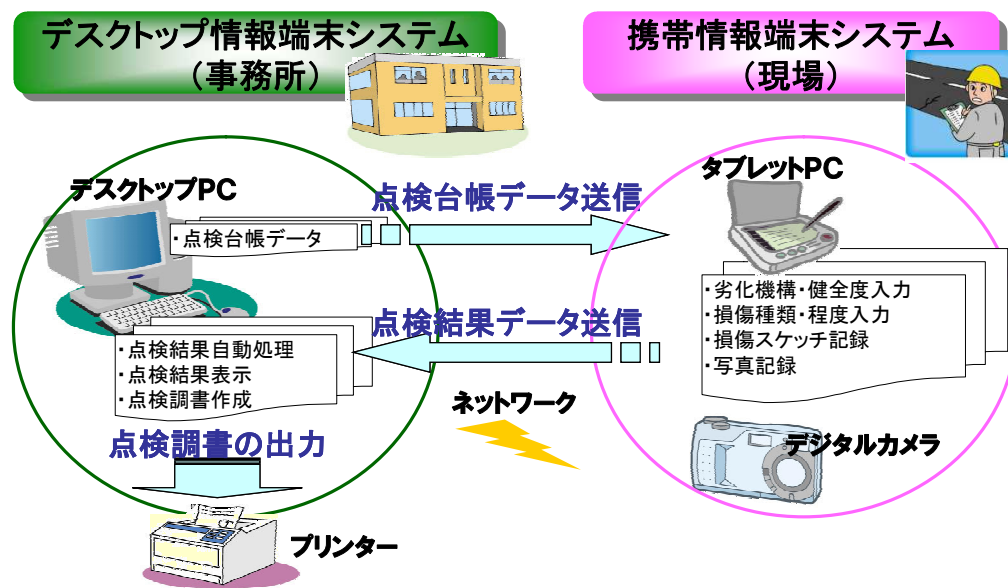


図 5-3 橋梁点検支援システム

● 健全度評価

橋梁の健全度は、潜伏期、進展期、加速期前期・後期、劣化期の5段階で評価します。  
全部材・全劣化機構に共通の定義を表 5-1 に示します。

表 5-1 全部材・全劣化機構に共通の健全度評価基準

健全度	全部材・全劣化機構に共通の定義
5 潜伏期	劣化現象が発生していないか、発生していたとしても表面に現れない段階
4 進展期	劣化現象が発生し始めた初期の段階。劣化現象によっては劣化の発生が表面に現れない場合がある。
3 加速期前期	劣化現象が加速度的に進行する段階の前半期。部材の耐荷力が低下し始めるが、安全性はまだ十分確保されている。
2 加速期後期	劣化現象が加速度的に進行する段階の後半期。部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている。
1 劣化期	劣化の進行が著しく、部材の耐荷力が著しく低下した段階。部材種類によっては安全性が損なわれている場合があり、緊急措置が必要。

また、部材・劣化機構ごとに評価基準を設定しています。評価基準は健全度の定義や標準的状态、および参考写真とともに「点検ハンドブック」として取りまとめ、それらを点検現場に携帯することにより、点検者によって点検結果が異なることのないようにしています。

【1 鋼部材 防食機能劣化・腐食 塗装】

健全度	定義	標準的状态
5:潜伏期 (5.5-4.5)	塗膜の防食機能が保たれている期間	変色や光沢の減少が局部的に見られる。
4:進展期 (4.5-3.5)	塗膜の防食機能が徐々に低下し、塗膜下で腐食が発生する期間	光沢の減少が進行し、上塗り塗膜の消失が局部的に見られる。 点錆、塗膜のひび割れ、はがれが局部的に見られる。
3:加速期前 (3.5-2.5)	腐食が顕著になり、腐食量が加速度的に増大する期間	発錆面積が2割程度である。 局部的に断面欠損が見られる(エッジ部など)。
2:加速期後 (2.5-1.5)		全体的に錆が見られる。 板厚の減少が見られる。
1:劣化期 (1.5-0.5)	腐食による耐荷力(静的引張、座屈、疲労)の低下が顕著になる期間	全体的に板厚が減少しており、局部的には1/2以下になっている。

※)発錆面積2割程度:点錆がかなり点在している状態をいう(鋼道路橋塗装便覧より)

(桁材等)



図 5-4 健全度評価基準の例 (点検ハンドブック)

## (2) 維持管理シナリオ

橋梁アセットマネジメントにおいては、橋梁の置かれている状況（環境・道路ネットワーク上の重要性）や劣化・損傷の状況（橋梁健全度）に応じて、橋梁ごとに、適用可能な維持管理シナリオ候補を一つまたは複数選定します。

維持管理シナリオは、図 5-5 に示すとおり、長寿命化シナリオと更新シナリオに大別され、長寿命化シナリオは以下の 6 種類を設定しています。

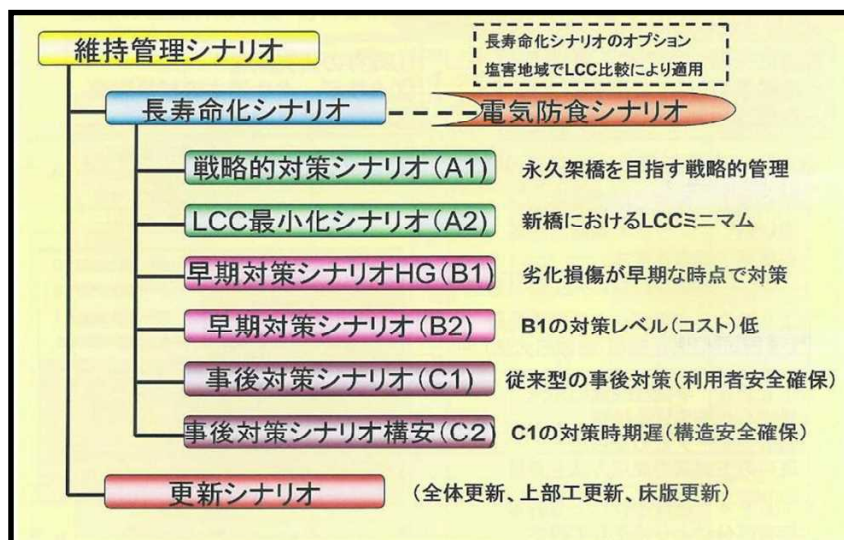


図 5-5 維持管理シナリオ

### ● 戦略的対策シナリオ (A1)

特殊橋梁、長大橋梁、塩害対策区分 S に該当する橋梁等を対象に戦略的な予防対策を行う。

### ● LCC 最小化シナリオ (A2)

新設橋梁の 100 年間の維持管理において LCC が最小となるシナリオ。すべてのシナリオの LCC と比較して LCC が最も小さいシナリオを選択する。

### ● 早期対策シナリオハイグレード型 (B1)

劣化・損傷が顕在化し始める加速期前期の段階で早期的な対策を行うシナリオ。信頼性の高い対策工法を選択することで初期コストは大きくなるが、事後対策シナリオよりも LCC を抑制することができる。

### ● 早期対策シナリオ (B2)

B-1 シナリオと同様に、加速期前期の段階で早期的な対策を行うシナリオ。B-1 シナリオと比較して、初期コストを抑制した廉価な対策を選択するが、事後対策シナリオよりも LCC を抑制することができる。

### ● 事後保全型シナリオ (C1)

劣化・損傷が加速期後期まで進展した段階で事後的な対策を行うシナリオ。利用者の安全性に影響が現れる前の段階で対策を行う。

### ● 事後保全型シナリオ構造安全確保型 (C2)

劣化・損傷が劣化期に移行した段階で事後的な対策を行うシナリオ。構造安全性に影響が現れる前の段階で対策を行う。

● 電気防食シナリオ（オプション）

コンクリート橋の桁材に対して、劣化・損傷の進行を抑制することを目的に電気防食を行う。その他の部材についてはA-1～C-2のいずれかのシナリオの対策を行う。

シナリオ候補の選定は、橋梁の健全度や架設されている環境条件、特殊性などを考慮して行います。図 5-6 にシナリオの選定フローを示します。

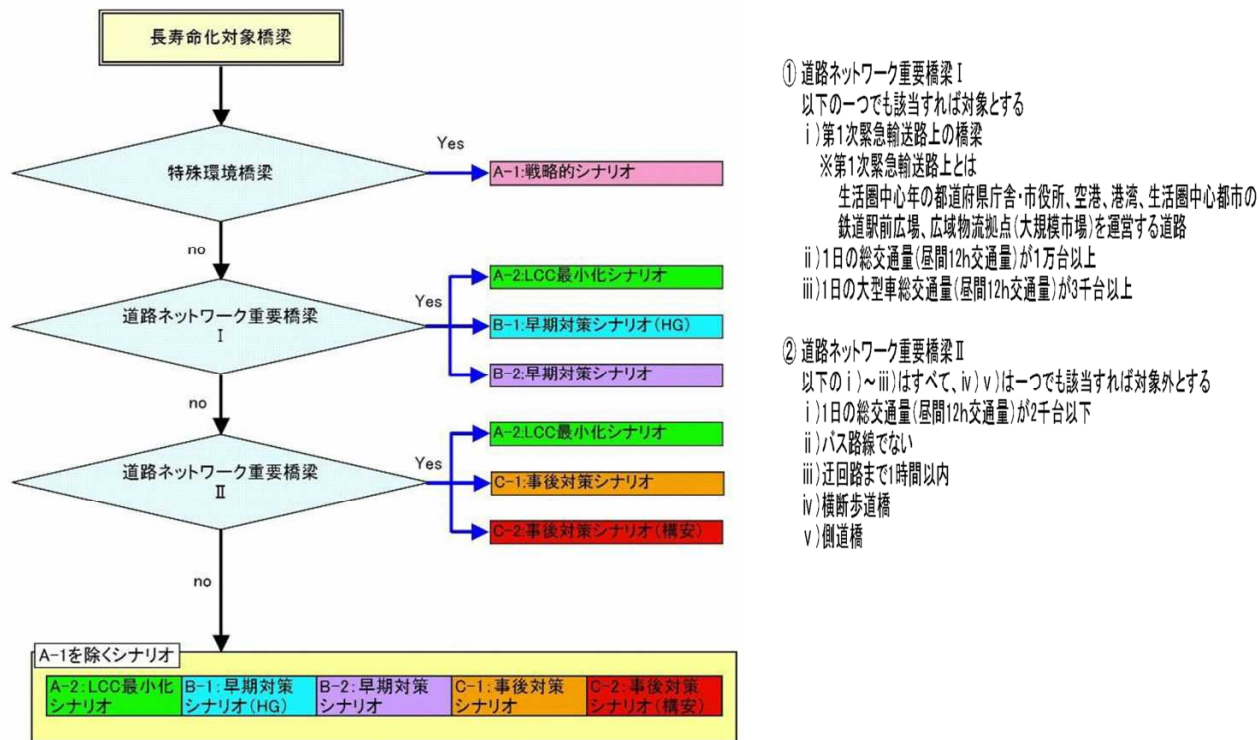


図 5-6 維持管理シナリオ候補の選定フロー

(3) 更新対象の選定

主要部材の劣化・損傷が著しく進行している老朽橋梁や、日本海側に多く見られるような塩害の進行が著しい重度の劣化橋梁は、高価な補修工事を繰り返すよりも架け替える方が経済的となる場合があります。これらの条件に当てはまる橋梁については、LCC 評価と詳細調査によって更新した方がコスト的に有利と判断される場合は、更新型シナリオを選定します。

(4) 長寿命化シナリオの絞り込み

仮橋の設置など架け替えが環境的・技術的に非常に困難な橋梁や、大河川や大峡谷に架設されていて架け替えに際して莫大な費用が発生する橋梁は、長寿命化シナリオを選定します。

それ以外の橋梁は、A2 及び B1～C2 より適切なシナリオを選定します。

(5) 健全度の将来予測と LCC 算定

● 劣化予測式の設定

健全度の将来予測は、劣化速度を設定した劣化予測式を用いて行います。



劣化予測式は、青森県の点検データや過去の補修履歴、および既存の研究成果や学識経験者の知見などをもとに、部材、材質、劣化機構、仕様、環境条件ごとに設定されています。

● 劣化予測式の自動修正

数多くのデータをもとに劣化予測式を設定しても、実際の橋梁においてはローカルな環境条件や部材の品質の違いなどがあるために、劣化は劣化予測式どおりには進行しません。そこで、点検した部材要素ごとに、点検結果を通るように劣化予測式を自動修正します。これによって、点検した部材要素の劣化予測式は現実に非常に近いものとなり、LCC 算定精度を大幅に向上させることができます。

● LCC の算定

あらかじめ対策を実施する健全度（「管理水準」という）を設定し、対策の種類や対策コスト、回復健全度、対策後の劣化予測式等の情報を整備することによって、繰り返し補修の LCC を算定することができます（図 5-7）。

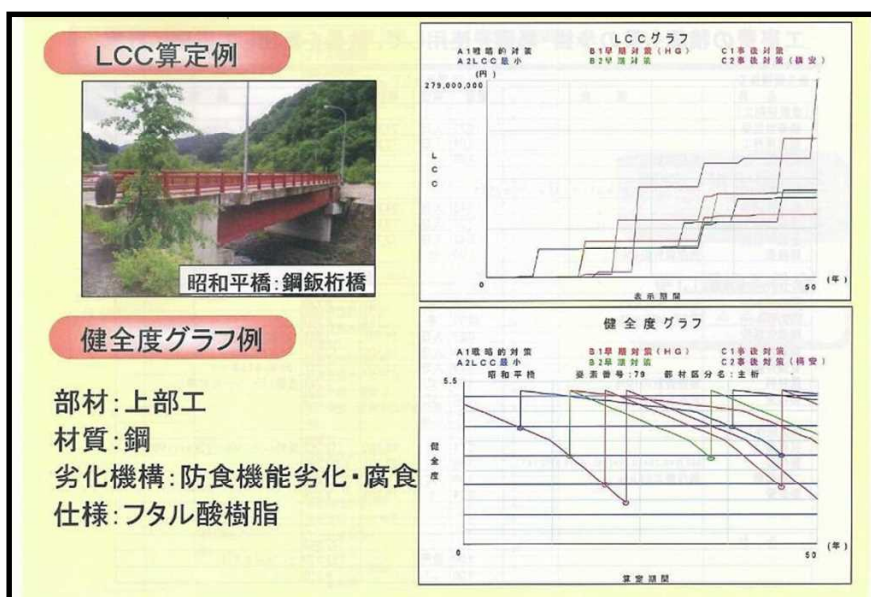


図 5-7 LCC 算定例・健全度グラフ例

## (6) 予算の平準化

- 算定した全橋梁のLCCが年によって予算の目標値を超過する場合は、維持管理シナリオを変更し、対策時期を後の年度にシフトすることで、予算目標との調整を図ります。
- シナリオ変更の順序は、シナリオを変更することでLCCの増加の少ない橋梁から優先して行います。

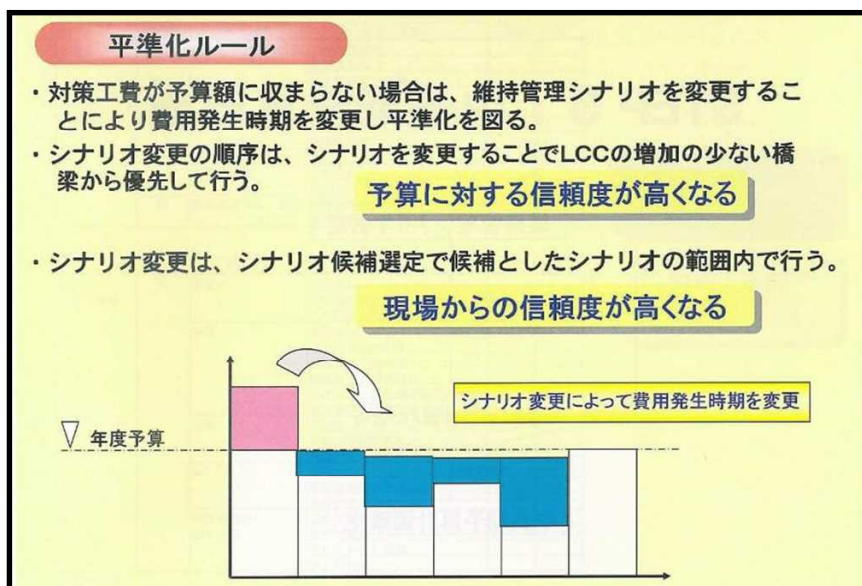


図 5-8 平準化ルール

(7) シナリオ別 LCC 算定結果

- 図 5-9 は維持管理シナリオごとに全橋梁の LCC を集計したものです。
- 全橋梁を事後対策シナリオ (C2) で維持管理した場合の 50 年間の LCC は 28.9 億円、LCC 最小シナリオで維持管理した場合の 50 年間の LCC は 12.6 億円となり、その差額は 16.3 億円となりました。

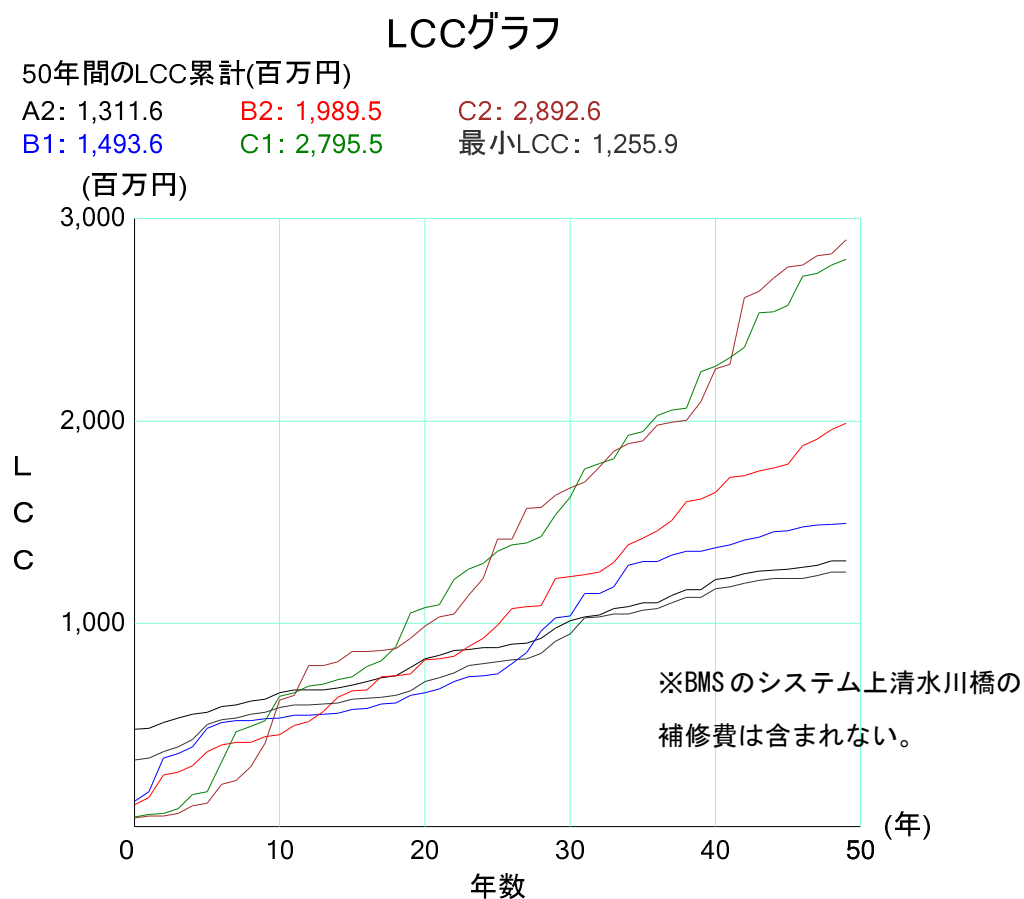


図 5-9 シナリオ別 LCC 算定結果

(8) 予算シミュレーション

- 50年間LCCが最小となるシナリオのLCCを集計した結果、毎年必要となる対策費の推移は図5-10のとおりとなりました。(LCC総額12.57億円)

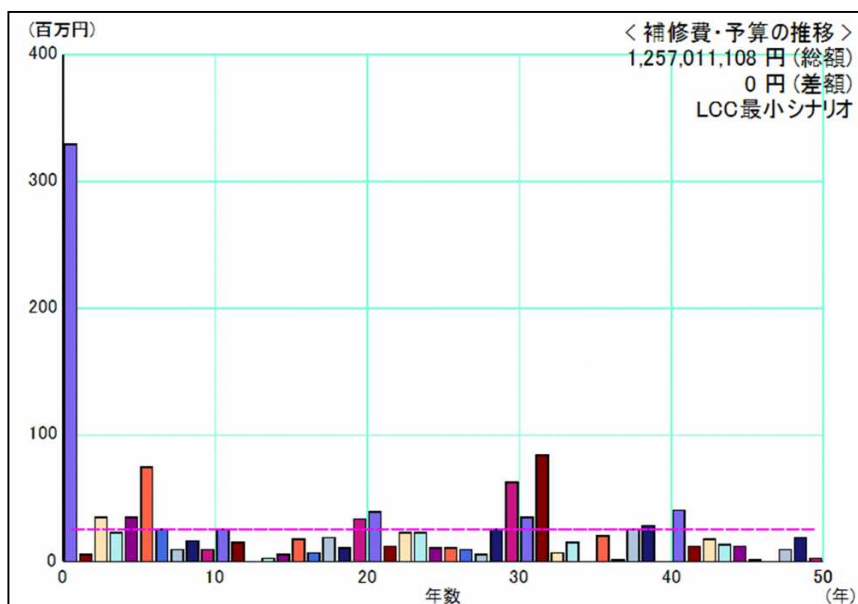


図 5-10 50年間LCCが最小となるシナリオの組み合わせにおける補修費の推移

- 「平内町の補修費に対する予算制約」と「劣化予測に基づいて計算された対策実施年から10年の繰り越しを許容」を予算平準化の条件として予算シミュレーションを実施した結果、図5-11に示すとおり、50年間LCCは12.57億円となりました。

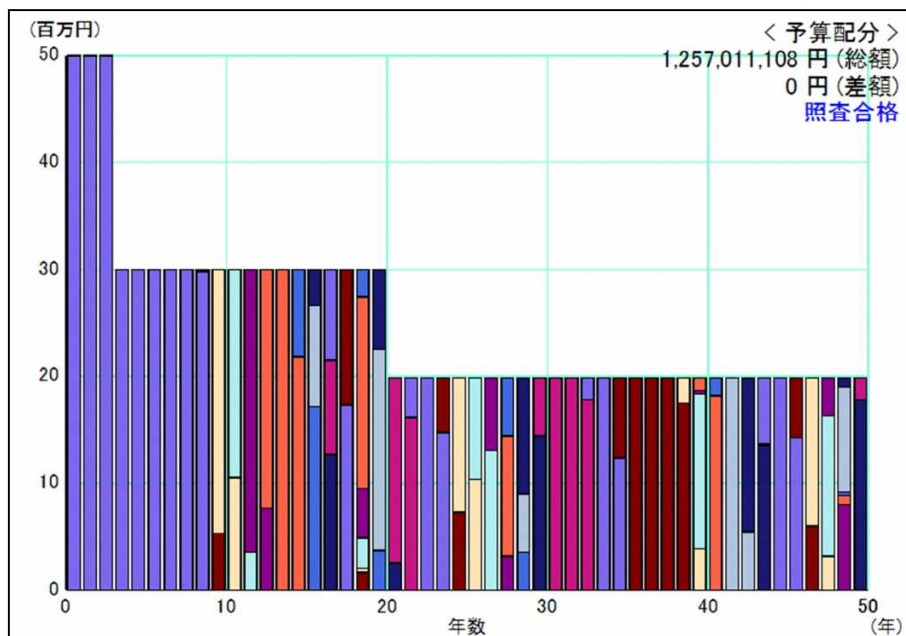


図 5-11 予算制約を考慮した予算シミュレーション結果



- 予算シミュレーション図 5-10 の前後で、シナリオ別橋梁数は表 5-2 に示すとおり変化し、補修費が最小となるシナリオの組み合わせでの計画はできない結果となりました。

表 5-2 予算制約の考慮によるシナリオ別橋梁数の変化

橋梁番号	橋梁名	シナリオ番号	シナリオ名	シナリオ番号 (最小)	シナリオ名 (最小)	変更 有無
301100121	童子橋	5	C1	5	C1	
301100222	大橋	3	B1	3	B1	
301100243	小湊川歩道橋	2	A2	2	A2	
301100323	清水川橋	32	CUA2	32	CUA2	
301100624	福島橋	3	B1	3	B1	
301100725	盛田橋	4	B2	4	B2	
301101626	第 2 松野木橋	2	A2	2	A2	
301102327	第二野内畑橋	5	C1	5	C1	
301203128	薬師橋	2	A2	2	A2	
301312829	口広橋	4	B2	4	B2	
301312830	第 1 堀差橋	2	A2	2	A2	
301313131	小沢橋	2	A2	2	A2	
301313232	雷電橋1	2	A2	2	A2	
301313233	雷電橋2	2	A2	2	A2	
301313234	雷電橋3	2	A2	2	A2	
301313235	雷電橋4	2	A2	2	A2	
301313236	雷電橋5	2	A2	2	A2	
301313237	雷電側道橋1	3	B1	3	B1	
301313238	雷電側道橋2	3	B1	3	B1	
301313239	雷電側道橋3	3	B1	3	B1	
301313240	雷電側道橋4	2	A2	2	A2	
301313241	雷電側道橋5	3	B1	3	B1	
301313242	雷電側道橋6	2	A2	2	A2	

- 初期の予算制約によりシナリオに変更がなかった為、50年間の予算としては総額 12.57 億円となりました。

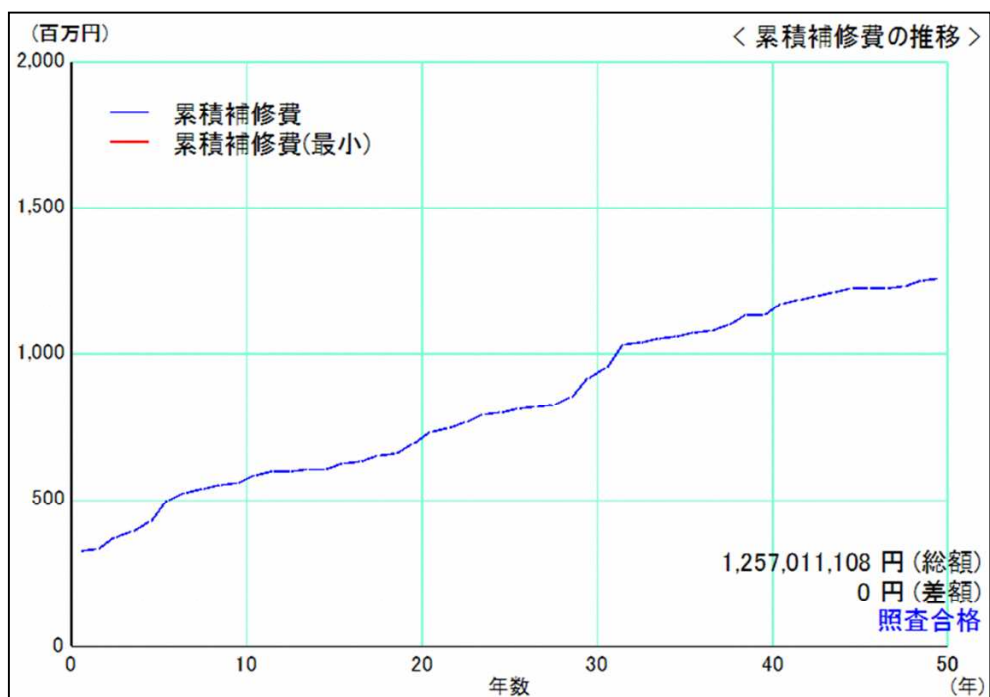


図 5-12 予算シミュレーション前後の累計補修費の比較

(9) 更新・長寿命化対策工事リスト

a) 長寿命化対策工事リスト

予算シミュレーションにより決定した各橋梁の維持管理シナリオに基づき、今後10年間に実施する長寿命化対策工事リストの概要を以下に示します。

表 5-3 橋梁の長寿命化対策工事リストの概要

年度	橋 梁	主な補修内容
2021	1 雷電橋2	上部工の断面修復など
2022	2 雷電橋1	主桁の断面修復など
2023	3 雷電側道橋4	上部工の脱塩工法など
2024	4 雷電橋5	上部工の断面修復など
2025	5 雷電橋4	上部工の断面修復など
2026	6 雷電橋3	上部工の断面修復など
	盛田橋	上部工の3種Aケレンなど
2027	7 福島橋	防護柵の交換など
2028	8 大橋	上部工の断面修復など
	薬師橋	床版の断面修復など
	雷電側道橋6	脱塩工法
2029	9 雷電橋1	上部工の断面修復など
	雷電橋2	上部工の断面修復など
	雷電橋3	下部工の断面修復など
2030	10 雷電橋4	上部工の断面修復など
	雷電橋5	上部工の断面修復など
	大橋	上部工の断面修復など

b) 計画的更新工事リスト

老朽化、河川改修などにより、今後10年間に実施する計画的更新工事リストの概要を、以下に示します。

表 5-4 橋梁の計画的更新工事リストの概要

年度	橋梁名	事業内容
令和2年度	清水川橋	橋梁架け替え工事

## 6. 橋梁長寿命化修繕計画により見込まれるコスト削減効果

計画的更新橋梁と長寿命化橋梁を区分し、予防保全型維持管理を中心とした効率的な修繕計画を継続的に実施することにより、従来の事後保全型維持管理と比較し、50年間で16.3億円のコスト削減を図ることが可能であると試算されました。

### ● 橋梁のコスト削減効果

<全橋を事後保全（C2シナリオ）した場合との比較>

○全橋を事後保全（C2シナリオ）した場合のLCC総額（50年間）	28.9億円
○予防保全型維持管理によるLCCの総額（50年間：架け替え含む）	12.6億円
<hr/>	
コスト削減額	16.3億円

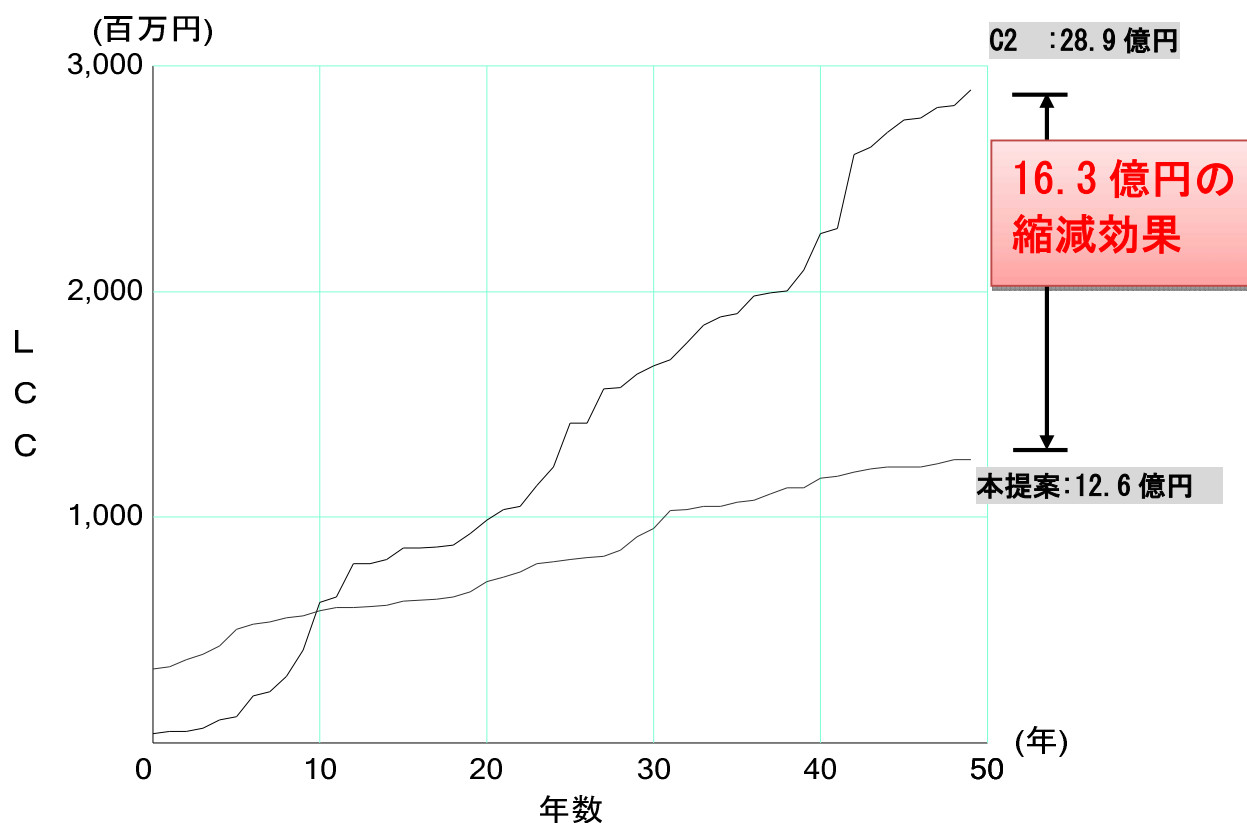


図 6-1 橋梁のコスト削減効果



## 7. 事後評価

計画的維持管理のレベルアップを目的として、定期的に事後評価を行い、必要に応じて計画に見直しを行います。

5年ごとに実施する定期点検データを分析し、劣化予測データベースやLCC算定データベースの見直しを行うとともに、中期事業計画の見直しを行います。

また、10年ごとに事業実施結果を評価して、政策目標や維持管理方針の見直しを行うとともに、中長期事業計画の見直しを行います。

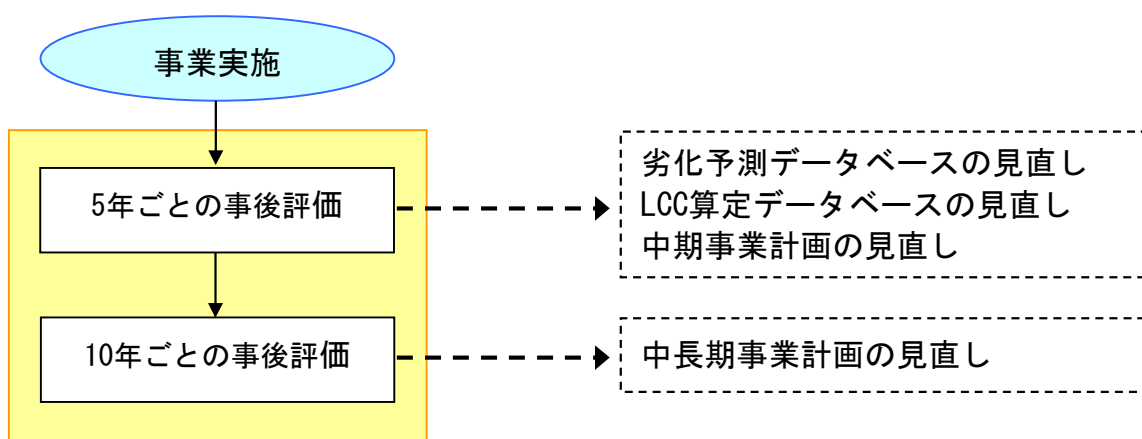


図 7-1 事後評価

## 8. 橋梁長寿命化修繕計画策定に係る学識経験者の意見聴取

---

本計画は学識経験者等の専門知識を有する方の意見を踏まえて策定しました。

- 学識経験者 上原子 晶久 弘前大学 准教授
- 計画策定担当 平内町 地域整備課

### 【意見聴取実施状況】



9. 橋梁長寿命化修繕計画一覧表

番号	橋梁名	路線名	架設年 (西暦)	橋長 (m)	幅員 (m)	橋梁の 種類	点検結果		重要度			点検・対策の時期											主な措置内容	LCC 比較検討 の有無 ※架替 の場合	対策費用 (千円)	
							健全性	緊急 輸送路	跨ぐ施設	迂回路の 有無	■点検、□補修、△架替															
											R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11						
1	童子橋	小湊外童子線	1968	41.0	8.7	鋼橋	Ⅲ	指定無し	河川	有														—	—	0
2	大橋	小湊線	1970	62.0	7.8	コンクリート橋	Ⅲ	指定無し	河川	有												□		上部工補修	—	16,920
3	小湊川歩道橋	小湊線	1978	62.0	2.7	コンクリート橋	Ⅱ	指定無し	河川	有														—	—	0
4	清水川橋	第一清水川線	1945	18.0	7.9	コンクリート橋	Ⅲ	指定無し	河川	有	△													架替	有	200,000
5	福島橋	小湊浅所線	1974	85.0	4.8	鋼橋	Ⅲ	指定無し	河川	有												□		下部工補修	—	38,230
6	盛田橋	盛田線	1978	83.0	4.7	鋼橋	Ⅱ	指定無し	河川	無												□		上部工補修	—	11,050
7	第二松野木橋	沼館松野木線	2002	58.0	8.2	鋼橋	Ⅰ	指定無し	河川	有														—	—	0
8	第二野内畑橋	平川東田沢線	1979	25.0	4.8	鋼橋	Ⅰ	指定無し	河川	有														—	—	0
9	葉師橋	一本松線	1968	54.0	3.7	鋼橋	Ⅲ	指定無し	河川	有												□		床版工補修	—	36,050
10	口広橋	平内環状128号線	1990	18.0	8.2	コンクリート橋	Ⅱ	指定無し	河川	有														—	—	0
11	第一堀差橋	平内環状128号線	1992	23.0	8.2	コンクリート橋	Ⅰ	指定無し	河川	有														—	—	0
12	小沢橋	斎場線	2002	47.0	6.2	コンクリート橋	Ⅰ	指定無し	河川	無														—	—	0
13	雷電橋	東和東滝線	1986	154.0	6.9	コンクリート橋	Ⅲ	指定無し	河川	有		□	□		□	□	□						□	上部工補修	—	230,010
14	雷電側道橋	東和東滝線	1994	163.0	3.3	コンクリート橋	Ⅰ	指定無し	河川	有				□								□		上部工補修	—	37,550
																		合計	569,810							